

1. 題材設定の理由

卒業を間近に控え、子どもたちは中学校の生活に夢を膨らませると同時に不安を抱き、ともすると、落ち着きのない生活ぶりになりやすい。

そこで、6年間の成長を振り返りながら、支えてくれた友だちや先生・職員に感謝の便りをつくることを通して自らを見つめ直し、それによって残された日々を充実して過ごせるようにしていきたい。

2. 指導のねらい

感謝の便りをつくることを通して、支えてくれた仲間や先生にお礼の気持ちを高めると共に、自らの成長を振り返り更に改善しようとする気持ちを育てる。

3. 指導計画（全1時間）

| | |
|----|---------------------------------------|
| 事前 | ・1年生の頃と6年生の今の自分を比べて、自分の成長をまとめる。(ノート①) |
| 本時 | ・便りの書き方を知り、1人に対して感謝の便りを書く。 |
| 事後 | ・全職員に対する便りを、担当のグループを決めてつくって渡す。 |

| | 活動のねらい | 活動の内容 | 指導・援助の留意点 | 資料等 |
|--------------------------|---|---|---|---------------------------------------|
| はじめの活動 | ・自分の成長を、仲間や先生などの言動とつなげて考え、手紙を書こうという気持ちをもつことができる。 | ◎苦しいときに支えてくれたり、自分の成長を助けてくれたりした仲間や先生などを思い出して発表する。 | ・6年生のときだけでなく、6年間全体を振り返るようにさせる。 ・友だちだけでなく、担任の先生や事務職員さん、校務員さん、司書さんなど、支えてくれた様々な方の名前があがるように助言する。 | ノート① ・担任の先生の氏名一覧。 ・転校生の担任の氏名など。 |
| 課題：自分を支えてくれた人に感謝の便りを書こう。 | | | | |
| 中心の活動 | ・感謝の便りの書き方を知り、相手を決めて便りを書くことができる。 | ◎「感謝の便り」を読んで、便りの内容について考える。 ・時、場面、心に残った言葉や態度が書いてある。 ・残りの学校生活で、何をがんばるのが書いてある。 ・折り紙を貼りつけたり、色をつけたりして、もらった人が楽しくなるような便りにしている。 ◎便りの構想を考えて発表する。 ・〇年生のときに学校で大ケガをした際、保健室の先生が病院まで連れていってくれたことを書きたい。手術が終わるまで付き添ってくれた先生の優しさを入れるつもり。ほくは、ケガをしないように、落ち着いて生活することをがんばりたい。 ◎便りを書く。 ・ていねいに書く。 | ・感謝の気持ちがしっかり伝わるためには、具体的な場面が想起できるような便りにするとよいということを理解させる。 ・色鉛筆やマジックなど、事前に用意しておくようにするとよい。折り紙や台紙、白上質などの用紙は用意しておく。 ・発表できる子2～3人の紹介をする。学級の友だちには面と向かって話せない子もいる。机間巡視をしながら、事前に発表者を確認して決めておく。 ・便りの書き方に沿って、時・場面・心に残った言動・がんばることなどが入れ込んでいることを確認する。 | 「感謝の便り」ノート② |
| まとめ | ・卒業にあたって、学校の全職員が用意を進めていることを話し、全職員に対しても便りを書くことを知る。 | ◎次時、全職員に対しては、グループまたは学級全員の寄せ書きをすることを知らせる。 | ・デジタルカメラなどで、グループごとに職員の写真を撮って貼りつけるようにできるとよい。 | ・事前に職員の写真を用意しておくのもよい。 ・色紙を用意 |

《説話例》 「卒業に向けて」

現在、皆さんの卒業式に向けて全学年が準備を進めています。先生たちは卒業式の会議の中で、皆さんの心に残る卒業式にしたいと話合っています。1年生の入学式から現在に至るまで、皆さんもよくがんばってきました。その時々、いろいろな先生方がかかわってきたはず。厳しく皆さんを叱り、指導して下さった先生。優しく教えて下さった先生。おいしい給食を食べてもらおうと、重い食缶をテキパキと運んでみえた校務員さん。そういうたくさんの先生方に支えられて、今の皆さん

があることを忘れない人になってほしいと思います。皆さんが、中学校や高校、また社会に出ても、皆さんを支えてくれる人が大勢います。その人たちを見逃さず、感謝しお礼を述べる気持ちを忘れなければ、皆さんの将来は明るいと思います。人との出会いの中で、人は成長していくのです。さあ、卒業まで、あとわずかな学校生活です。今日書いた便りだけでなく、毎日の学校生活の中で、感謝の気持ちを行動で表してください。そして、胸を張って卒業してください。